

## 幼児の発達を促すための環境構成の工夫

— 戸外における遊具の活用を通して —

佐敷町立佐敷幼稚園教頭 玉城 美慧子

### 目 次

I	テーマ設定の理由	11
II	研究仮説	11
III	研究の全体構想図	12
IV	研究内容	13
1	環境と発達	13
2	発達の筋道	13
3	幼児期の発達特質	13
4	幼児の心身の発達特徴	14
V	実践事例	15
1	環境の工夫と幼児の姿・育ち	15
2	検証保育を通して	17
3	幼児の動きを見つめて	18
VI	考 察	19
VII	研究の成果と今後の課題	20
1	成 果	20
2	今後の課題	20

## 〈幼稚園教育〉

# 幼児の発達を促すための環境構成の工夫

— 戸外における遊具の活用を通して —

佐敷町立佐敷幼稚園教頭 玉城 美慧子

## I テーマ設定の理由

幼稚園教育は環境を通して行う教育である。幼児期は、環境からの影響を大きく受ける時期であり、この時期にどのような環境の下で生活し、その環境にどのようにかかわったかによって将来にわたる発達や人間としての生き方において重要な意味をもつ。幼稚園生活においては、環境としての教師のかかわりは最も大切な事である。教師と幼児との信頼関係をもとに、幼児の発達する姿を読み取り、適切に手立てを施して行く中で環境の見直し、環境の構成、教師の援助の在り方について幼児の発達の姿を学び、柔軟に幼児を受け入れつつ共に環境を作り上げて行くという姿勢は幼児教育に携わるものの姿勢として重要である。

私は、平成7年度「自ら思い切り体を動かすための環境構成の工夫」というテーマでささやかながら実践した。そのなかで環境が幼児の発達に与える影響の大きさを目の当たりにし「幼虫に興味を示す子」「植物に関心をもつ子」「ごっこ遊びに興じる子」「木登りに夢中になる子」等それぞれが環境からの多大な影響を受けて変容をしていく姿を見てきた。つまり、幼児が身近な環境から刺激を受け、心や体を揺さぶられながらより高きに挑戦し、「やった！できた！」という満足感、充実感、感動体験に支えられて遊びに夢中になる。さらにいろいろ創意工夫を重ねながら達成感を得て発達が一層促されていく姿に触れることができた。以上の実践から得た事を踏まえ、幼児の主体的活動へと導く環境の在り方や、ひいては発達を促す環境の在り方について研究を深めることにした。

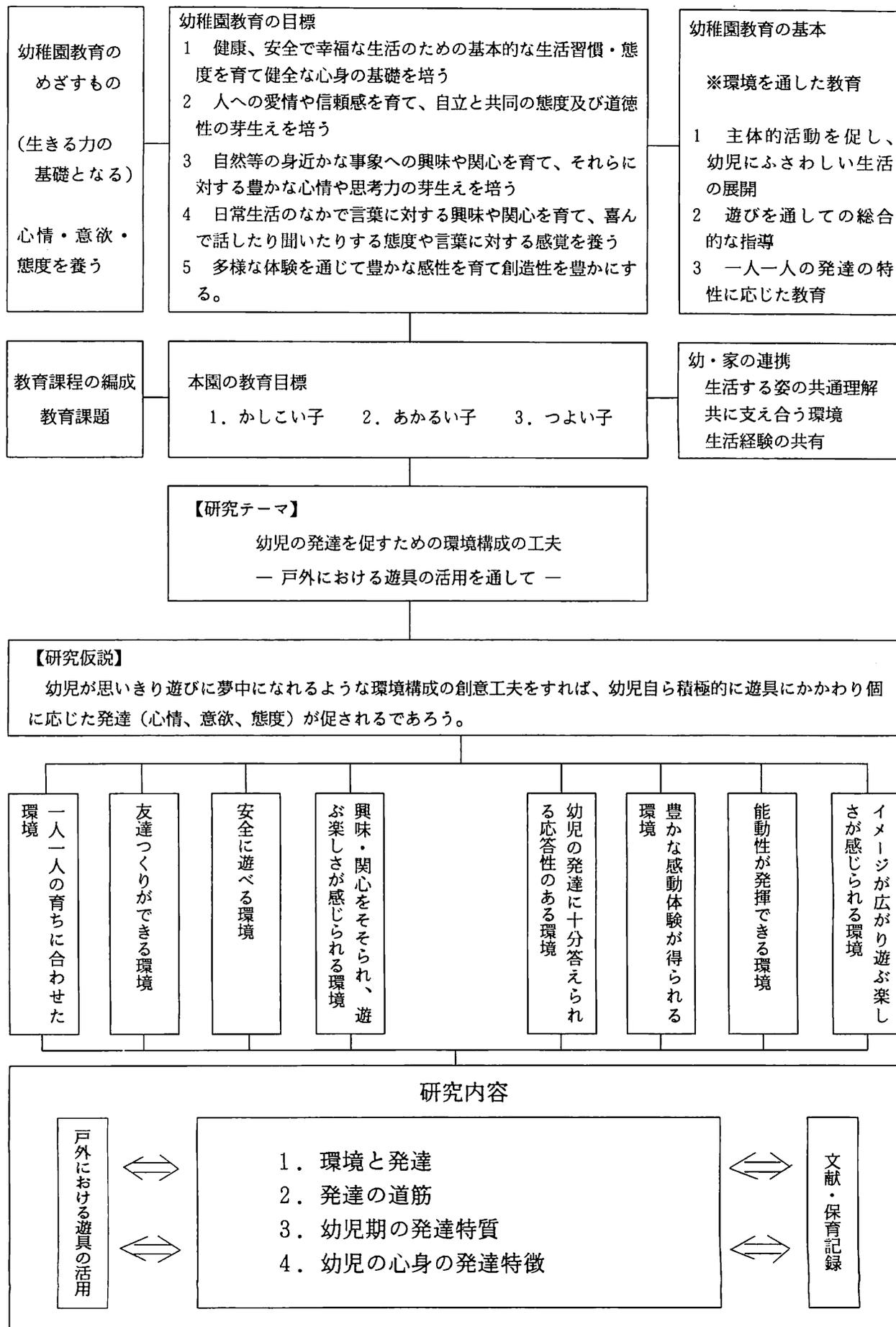
本研究では、ターザンロープ、スケーター、トロッコ遊びを中心に環境構成と幼児の発達とのかかわりを見ていくことにした。スピード感やスリル感溢れるこれらの遊具は、幼児の最も興味関心を示す大好きな遊具である。それに主体的に夢中になってかかわる中で、満足感、充実感を味わい、自己発揮しながら知らず知らずのうちに一人一人の発達が促されていくことが考えられる。又、これらの遊具は幼児が「より楽しく」「より安全に」創意工夫を重ねて遊ぶ事が期待できる教材である。幼児の興味や関心をそそるような環境構成の工夫をすることにより、直接的、具体的な体験を重ね生きる力の源となる豊かな心情や物事に自分からかかわろうとする意欲や、健全な生活を営むための必要な態度が培われてくる。

そこで、教師が戸外の遊具や空間を効果的に構成し幼児自ら環境を再構成していく中で、発達が促されていく姿を探りたいと考え、本テーマを設定した。

## II 研究の仮説

幼児が思いきり遊びに夢中になれるような環境構成の創意工夫をすれば幼児自ら積極的に遊具にかかわり個に応じた発達（心情、意欲、態度）が促されるであろう。

### Ⅲ 研究全体構想図



## IV 研究内容

### 1 環境と発達

幼児は環境の中に生まれ、成長と共に環境からの刺激を受けつつ環境に適応していく。環境と出会い、興味や関心のあることを生活の中に取り入れ、「環境にかかわる力」そのものを高めつつ常に活動している。幼児期はその力が育つ最も大切な時期であり、この課程が発達の姿である。幼児が環境に主体的にかかわろうとする意欲を育てることはきわめて重要である。

その幼児が育つ環境を構成するということは、いろいろな遊具、用具、素材などを組み合わせたり並べたりする事というように受け止められることがあるが、単にそうした物の構成のみを指しているのではない。環境には物や人、自然や社会の事象、時間や空間、それらがかもし出す雰囲気など様々な要素が含まれているが、そうしたものを相互に関連させながら、幼児の興味や関心に即して主体的な活動を促し、その活動の中で必要な体験を重ねていけるような状況を積極的に創り出すことなのである。

幼稚園生活は一人一人の幼児にとって楽しく、充実したものでなければならない。そうでなければ幼児は自らすすんで環境に働きかけたり、自分の可能性を発揮することができにくいからである。活動は、幼児が環境にかかわって自ら生み出すものである。従って教師が教えるというのではなく、子供が主体的に遊びの中で学んでいくものである。幼児が喜んでかかわりたくなるような環境を用意し、子供が主体的に活動することができるように援助することである。その為に、日々の生活を充実させることが基本となる。教師との信頼関係を基盤に能動性が十分に発揮できるようにすること、また発達に応じた環境からの刺激が重要である。幼児の環境とのかかわり合いによる発達は、一般的に、下図の通りであるが、発達の道筋は個により多様な過程を経ていく。

### 2 発達の道筋

- (1) 幼児の発達は、画一的ではなくいくつもの道筋がある。
- (2) 発達の側面は、停滞したり、急激に伸びたり、一つの側面が伸びることによって他の側面が促されたりする。
- (3) 発達する姿は、長い期間としてみれば共通性や順序性が見られるが、短い期間で見るといろいろな道筋を歩んでいる。
- (4) 発達の道筋には節目がある。停滞したり、低迷したりしているように見える時でもある。しかし、こうした時期は、その子なりに貯め込んでいるものがあり、その時期を乗り越えると急激に発達することもある。

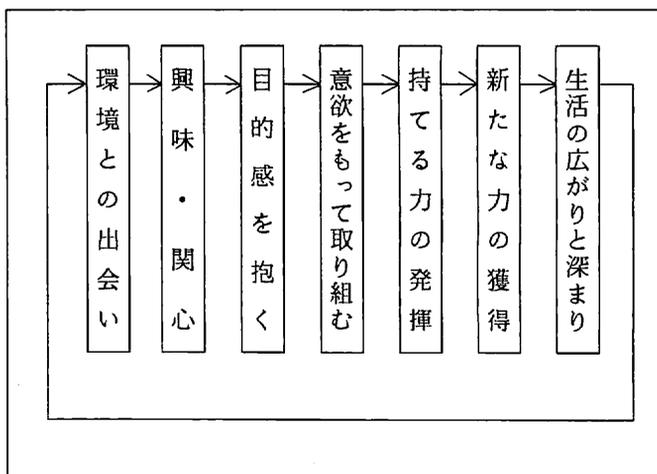


図1 〔発達が促されて行く過程〕

### 3 幼児期の発達特質

3歳ないし5歳の幼児の発達の特質を身体的発育・知的発達・情緒的発達・社会的発達の四項目に分けて表示すると（表1）の通りである。身体的発育の中には、身体的な面と運動的な面とに分けられる。次頁の表は発達の標準を示すものである。従って個々の幼児については個人差が認められる場合が多いのは当然である。また発達の各側面について見ると、一側面のみ発達が進んでいたり、一側面の発達が遅れていたりする場合もある。教師は幼児が円満で調和のとれた発達をするよう、その幼児として最高度の発達を図ってやるべきである。発達の課程は、実践的指導のなかにおいて、いろいろの活動や経験をさせつつ、常に考慮されなければならない。

幼児の育つ環境は、主として家庭である。けんかをしてもその解決は家庭まで持ち帰られ、多くの欲望をを充たすのも家庭である。家庭のかれらに及ぼす影響は著しくて大きい。従って、それぞれ異なった家庭から一人一人異なった幼児が育ってくるのは当然のことである。次頁に示した表はあくまで標準的なものである。特に、知的発達や社会的発達において幼児の個人差は著しくなるであろう。

表1 幼児の心身の発達特徴

		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
身 体 的 発 達	身 体 的 発 達	<ol style="list-style-type: none"> <li>身長 男88.5cm 女87.2cm</li> <li>体重 男12.75kg 女12.16kg</li> <li>脈はく数 100</li> <li>呼吸数 30</li> <li>睡眠時間 14時間</li> <li>視力 遠視</li> <li>かかりやすい伝染病：ジフテリア、はしか、百日せき、水痘、赤痢、しょうこう熱。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>身長 男94.7cm 女93.6cm</li> <li>体重 男14.27kg 女13.73kg</li> <li>脈はく数 100</li> <li>呼吸数 30</li> <li>睡眠時間 13時間</li> <li>視力 軽度遠視</li> <li>かかりやすい伝染病：ジフテリア、しょうこう熱、赤痢、はしか、水痘。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>身長 男100.3cm 女99.5cm</li> <li>体重 男15.65kg 女15.2kg</li> <li>身長の増加が体重の増加より著しくなる。(伸長期に入る)</li> <li>頭囲より胸囲が大となる。</li> <li>身長と頭高との比が3:1.6となり、頭高が身長に比してやや小さくなる。</li> <li>脈はく数 90</li> <li>呼吸数 30</li> <li>睡眠時間 12~13時間</li> <li>視力 軽度遠視</li> <li>永久歯がはえはじめる。</li> <li>かかりやすい伝染病：しょうこう熱、はしか、赤痢、水痘、耳下腺炎。</li> <li>筋力は成人の約1/6~1/5位。</li> </ol>
		<ol style="list-style-type: none"> <li>両足をそろえてとぶ。</li> <li>足を交互に踏み出して階段を上る。</li> <li>円を描いて見せるとまねて描く。</li> <li>積み木で橋を作ってみせるとまねて作る。</li> <li>正方形を模写する。</li> <li>はしを使うことができる。</li> <li>はさみを使うことができる。</li> <li>ボタンの掛けはずしができる。</li> <li>くつをはく。</li> <li>水が半分ぐらいにはいったコップを持ち運ぶ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スキップができる。</li> <li>片足立をしようとする。(少しの間ならできる)</li> <li>走り幅跳び、立ち幅跳びができる。</li> <li>ボールをじょうずに投げられる。</li> <li>さみで形の切り抜きができる。</li> <li>ひもを結ぶことができる。(固結び)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>片足立ちができる。</li> <li>小さい物を巧みに扱える。</li> <li>三角形を模写する。</li> <li>はしを巧みに使う。</li> </ol>
		<ol style="list-style-type: none"> <li>絵を描いて命名する。</li> <li>仮定的な場面を考えることができる。</li> <li>四つのものを数える。</li> <li>短文(2・3語)の反唱ができる。</li> <li>空調関係(上、下、前、後)を理解する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>13まで正しく数える。</li> <li>重さの比較ができる。</li> <li>三つの数字の反唱ができる。</li> <li>三つの命令を正しく実行する。</li> <li>語数の増加が著しい。</li> <li>発音が正しくなり、赤ちゃんことばがなくなる。</li> <li>非常によく質問する。</li> <li>簡単な課題を解決する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>求知心が強くなる。</li> <li>想像と現実との区別が十分につかなくなることが間々ある。</li> <li>一つのことを始める前に一度の計画を持っている。</li> <li>用途によって物の定義をする。</li> <li>手の指の数が正しく言える。</li> <li>右と左の区別ができる。</li> <li>成人との話が自由にできる。</li> <li>いろいろの貨幣のなまえが言える。</li> <li>きのう、きょう、あすの区別ができる。</li> <li>具体的推理ができる。(関係はなく)</li> </ol>
		<ol style="list-style-type: none"> <li>困ったり、非常に不快なことや苦痛があると泣きやすい。</li> <li>だんだん特殊なものをこわがりはじめる。(犬、ねこ等)</li> <li>まだときどきかんしゃくを起こすことがある。</li> <li>喜びをことばで表現するようになる。</li> <li>子供どうしの愛情を表わしはじめる。</li> <li>小さいものをかわいがりはじめる。</li> <li>おとなの干渉をいやがる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3歳児と同じようなことで泣きやすいが、だいぶ抑制できるようになる。</li> <li>理由のない恐怖心(たとえばくらやみに対する)が多い。</li> <li>かんしゃくはほとんど起こさなくなる。</li> <li>おこった時の表現が次第に抑制的になってくる。</li> <li>小さい子供をかわいがることを喜ぶようになる。</li> <li>反抗期が終り、おとなの指示や命令に従うようになる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>泣くことが非常に少なくなる。</li> <li>恐怖心がやや少なくなるのが普通である。</li> <li>怒りかんしゃくはほとんど抑制される。</li> <li>情緒は分化しておとなに見られる大部分の情緒が現われる。(例 はにかみ、恐れ、心配、怒り、しつとう、うらやみ、失望、不快、いみきらい、愛情心への愛情、小さい者への愛情、のぞみ、喜び、快等)</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>手を洗う。</li> <li>他人の注意をひくたねによく質問する。</li> <li>社会的活動の中に入りはじめる。</li> <li>順番をまつことがわかる。</li> <li>ごっこ遊びが多くなる。</li> <li>自己主張が強く、反抗的になることが多い。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>自分で着物を着たり脱いだりする。</li> <li>排便のことは全部自分でできる。</li> <li>歯をみがく。</li> <li>顔を洗う。</li> <li>大人数の中にある自分というものを意識しはじめる。</li> <li>他人の子供達と協同的に遊びはじめるが、2人か3人のグループが多い。</li> <li>簡単な遊戯の規則を守ることができる。</li> <li>ごっこ遊びが最も盛んである。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>孤立的な自信を持ち、従順になるので物事をまかせられる。</li> <li>小さい者をいたわる。</li> <li>自分の周囲の社会生活を遊びに取り入れる。</li> <li>2人ないし5人ぐらいのグループで協同的に遊べる。</li> <li>友だちと遊ぶことを好む。</li> <li>自己主張をし、他人への依頼感を持ち、社会的協同性を持つようになる。</li> </ol>		

## V 実践事例

### 1 環境の工夫と幼児の姿・育ち

幼児は環境とかかわって直接体験することにより個々の、発達が促される。主体的に「やってみよう、やりたい。」という意欲をおこしたり、自分の力を試したり、取り組んだりすることのできる環境を構成したいとの願いから見直し改善をすすめた。環境の工夫、幼児の姿、育ちは下記の(表2)の通りである。

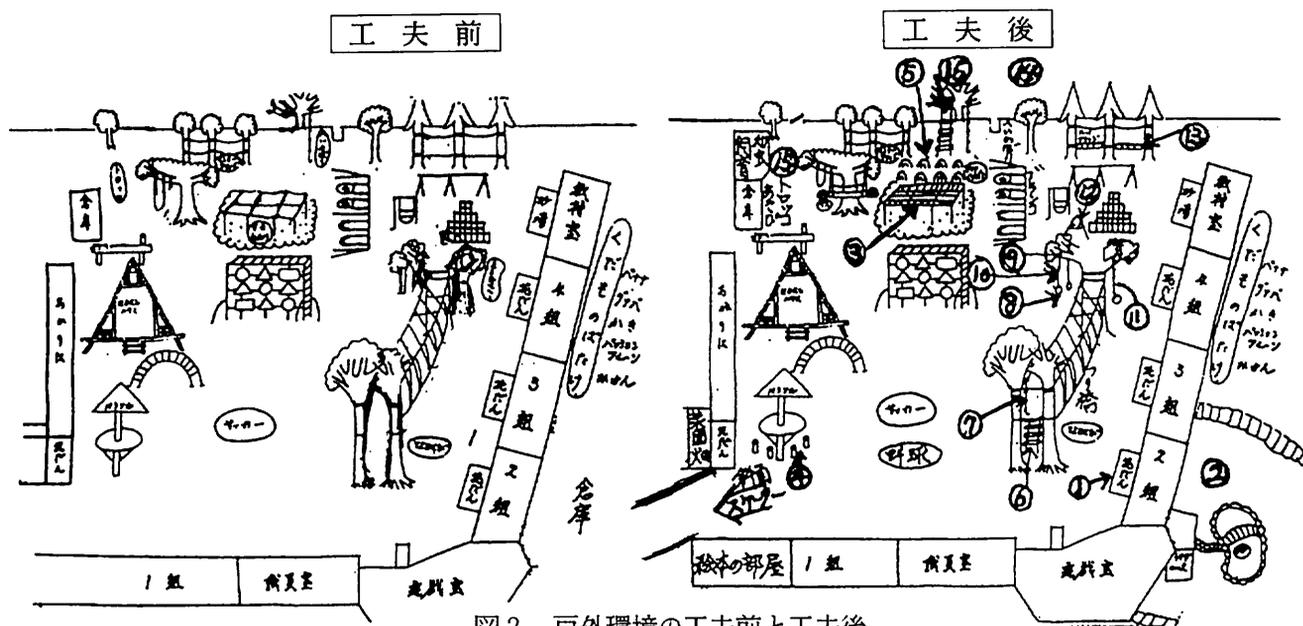


図2 戸外環境の工夫前と工夫後

(表2) 環境の工夫、幼児のすがた、育ち

環境の工夫	◎ 幼児の工夫 ○ 教師の工夫	幼 児 の 姿	育 ち
①	〈花壇〉 ○虫やチョウをよぶための植物を植える。 ◎花の種・苗(摘んでいい花鑑賞用の花) 野菜や果物を植えて育てる。	虫捕り、飼育、観察、図鑑を見る。 果物をもぎ取る。 水かけ、花つみ、花を飾る。	疑問、気づき、試し、確かめ、驚き、発見、虫を花の上に置く。 思考力、喜び、感動。
②	〈ウザギとカメの部屋〉 ○倉庫がある為暗いので撤去して飼育小屋とカメの家造りをする。場所を広くとり柵で囲み放し飼いをする。	直接小動物に触れて遊ぶ。抱っこする。エサをあげる。掃除をする。	おみやがり、やさしさ等心情。 探求心。
③	〈さるわたり〉 ◎日よけの為に作ってあるので間隔があきすぎている。時々鉄棒に見たてて登る子がいるが、あまり利用されていない。「先生、棒があったらいいね」という幼児の要求に答えるためにどの位の間隔が良いのか話し合っって登り棒を何本か入れる。	間隔が狭くなった為、鉄棒をする子や上に登る子が増えた。コロコロと組み合わせて利用する子が多く見られる。	気づき、発見、挑戦、運動能力 創造性、筋力
④	〈パラソルの腰掛け〉 ○パラソルに腰掛け用の棒板を取り付ける。	鬼ごっこをしたり、遊具を組み合わせて遊ぶ中で腰掛けを足場にして遊びを楽しむ。	挑戦、ルール、集中力、気づき 工夫、イメージを広げる。
⑤	〈タイヤ〉 ◎タイヤに色をぬり半分を土に埋める。	スケーターで歩いたり、跳び箱として利用。色遊びにも使用する。	跳躍力、屈伸、工夫、イメージ を広げる。

	環境の工夫 ◎ 幼児の工夫 ○ 教師の工夫	幼 児 の 姿	育 ち
⑥	<p>〈つりばしに階段取り付け〉</p> <p>◎つり橋を木に結んであるが高い為、登るのに時間を要する子がいる。コロコロやテーブルを置いて足場になっているが、登れない子が2人で「せんせい階段をつくってちょうだい」といった。子供と相談して丸太の階段にする。</p>	<p>丸太の階段を足をふみしめながらゆっくり登って行く。集中して足場を確かめながら登って行く為、時間がかかる。慣れてくるとスイスイ登る。</p>	<p>思考力、気づき、集中力、注意力、バランス、能力。</p>
⑦	<p>〈つり橋にターザンロープ取り付け〉</p> <p>◎アメリカネムノキの木にターザンロープを取り付けてあるが、こわくて乗れない子がいる。乗れない子供の為に、相談して階段のすぐ近くに小さなターザンロープをとりつける。</p>	<p>つり橋のロープををしっかりつかんでターザンロープに飛び乗る。始めは、こわごわだがその内スイスイ飛び乗る。</p>	<p>自分の能力に応じて選定する。挑戦、勇気、集中力、思いきり身体ごとぶつかる。</p>
⑧	<p>〈ロープの先端にワッカ取り付け〉</p> <p>◎ロープの下の固い結び目に太ももをこすられ痛いと訴える幼児がいる為、ワッカを取り付けた。足場が安定する。</p>	<p>仲間と一緒に多人数で乗る事に挑戦、楽しんでいる。コロコロを使って今迄より大きな輪を描く。グルグルまわしてから乗る。(小まわり) 2人から4人乗りに挑戦。</p>	<p>友達関係のまとまり。仲間外れをつくらず「みんないっしょに」との共同感を育てる。友達同士のぬくもりを感じる。手先の操作。</p>
⑨	<p>〈木にワッカ取り付け〉</p> <p>◎木にタオルを巻いてその上からロープで結んであった「木ってかわいそうゆらゆらゆれているよ」との子供の声を聞き、どうしたら木に優しくロープを取り付けることができるのかを共に考える。タオルの上からワッカを固定させ、ワッカの耳にロープを取り付ける。</p>	<p>ロープのゆれを利用して鳥にみたてて遊ぶ。地面を大きくける。コロコロの上を大まわりする。ロープが固定されたので木が安定して入るゆれが少ない為、もてる力を出しきって思いきり遊ぶ姿が見られる。</p>	<p>安全に遊ぶ。求知心、抽象思考の能力。イメージを広げて遊ぶ。力の発揮。(鳥、カエル) 思いやり。</p>
⑩	<p>〈ターザンロープ取り付け〉</p> <p>○つり橋の側にロープがあったが、魅力がないのか遊ぶ子が少ない。以前よりロープを長めにして新たに取り付けた。又、遊びを広げる為、その側にもう一つロープを取り付ける。</p>	<p>足を屈伸させ、体を思いきり使いながら、自由自在にロープに乗っている。コロコロ大小を利用したり、柵の上に乗ったりしながら位置を変え、大胆に遊びを繰り広げる。5名乗りに挑戦。4m離れている2つのロープをブランコにみたてて乗る。つり橋の上から跳び乗りロープを3つ使い、うんてい、マット、コロコロ等の遊具を組み合わせで遊ぶ。</p>	<p>知的的好奇心、気づき。意欲をもって活動に取り組む。新しい力の発揮。(ブランコ、サーカス) 生活の広がりや深まり。</p>
⑪	<p>〈ターザンロープに結び目取り付け〉</p> <p>◎子供達にとってあまり魅力がなく使用されていないターザンロープに結び目をつける。</p>	<p>鉄棒として使用。アメリカネムノキの木に結んであるロープに足を置いてターザンロープに飛び乗り、ペンポンボンとリズムよく足をけて的あてごっこをしている。</p>	<p>イメージを広げて遊ぶ。豊かな感性。環境を再構成しながらもてる力の発揮。</p>
⑫	<p>〈土山づくり〉</p> <p>◎ターザンロープに乗る時に土山があったら遊びが広がるだろうとの思いで子供と一緒に土山をつくる。</p>	<p>土山の上からロープに跳び乗っていたが天辺を平坦にしてからコロコロを置き、より高い所から跳ぶ。安定しないので手で押さえる。</p>	<p>高い所から乗る事の楽しさに気づく。優しさや、思いやり。共感</p>
⑬	<p>〈竹の橋取り付け〉</p> <p>◎網の橋に飽きがきて遊ぶ子がいない為、竹の橋に切り換える。</p>	<p>竹橋を使ってサッカーをする。手で支える網を使って鉄棒をする。網の上に座って仲間同士の交流の場をもつ。</p>	<p>創造性、人間関係の広がり。</p>

環境の工夫 ◎ 幼児の工夫 ○ 教師の工夫	幼 児 の 姿	育 ち	
⑭ 〈塀のペンキぬり〉 ◎塀が灰色なので園庭全体が暗い。イメージが湧かない。幼児と保護者と一緒に花や虫、生活している子供の様子をペンキで描く。園庭が明るくなる。	色を塗ったタイヤと組み合わせて色遊びをする姿や塀の上にロープで登ったりお互い助け合いながらよじ登ったり、塀の上で一休みする姿が見られた。又バックの絵の世界に融け込みイメージを広げてチョウになって遊ぶ姿が見られました。その事から自分達が父母と一緒に塗ったというので誇りに思っている。	感動体験、創造性、満足感。	
⑮ 〈斜面に土を入れる（トロッコ遊び）〉 ◎でこぼこな斜面に土を入れる。	滑りが良くなり、遊びに深まりが見られた。	連結したり、スピードを上げる為の工夫。	
⑯ 〈丸太のはしご〉 ◎「先生塀の登りたいけど、ロープで登れない。先生はしご作って」という子供達の言葉を受けて、丸太のはしごを取り付ける。	固定されていない為、よく動くゆらゆらゆれて、楽しいという。	充実感、満足感。	
その他遊具を組み合わせた遊びの創造	◎ロープ、木、雲梯、マットを組み合わせる。	忍者を想定して、ロープから、雲梯に飛び乗る時のスリル感を味わう。	思考力、運動能力、敏捷性、創造力、瞬発力、イメージを広げる、安全性。
	◎ベンチを折り曲げ、4、5台組み合わせて高低をつくる。	ジェットコースターにみたててスピード感やスリル感を味わい満足している。	知的な好奇心、安全性、運動能力、創造性、敏捷性、瞬発力。
	◎ベンチを片方、折り曲げる。	スケーターを踏み台にして急斜面から滑り、スピード感やスリル感を味わう。	思考力、集中力、瞬発力、達成感、運動能力、安全性、敏捷性
	◎ベンチを折り曲げ、マットと組み合わせる。	2メートルの高さから、ジャンプして鉄棒をつかむ。（ジャンプの踏み台）	思考力、集中力、瞬発力 安全面、運動能力、敏捷性
	◎大小のコロコロとゴザを組み合わせる。	すべり台に見立てて滑る。	思考力、イメージ
	◎丸棒ベンチを組み合わせる。	丸棒をテーブルに見立てて、本読みをする。丸棒で鉄棒をしたり、コアラや猿になったりする。	思考力、イメージ
◎ログハウスの床の空間を利用する。	ベンチ、ゴザ、石ころ、びん、虫等の遊具を持ち込んで、遊びを楽しむ。	秘密の場所の共有、思考力、創造性、イメージを広げて遊ぶ、共感、気づき	

## 2 検証保育を通して

### 検証保育細案

ねらい	戸外環境に興味をもってかかわり自分なりの目的を実現する楽しさを味わう。	内 容	ターザンロープ、スケータートロッコ遊び等でその子なりのスピード感やスリル感を楽しむ。
時間	<input type="checkbox"/> 内容 <input type="checkbox"/> 活動    ▲ 環境構成    ● 教師の援助		
9:00	スケーター (教師の手だて) … (期待される幼児の行動及び発達) 平坦面で走って遊ぶ。 ↓ 斜面下(コンクリート)にマットを置いたり白線を引いたりする。 ↓ 安全に気をつけながら遊ぶ。(斜面すべり)	挑戦して遊ぶ コロコロ大小準備	ターザンロープ (期待される幼児の行動及び発達) ロープにしっかり固定しているので安定する。 ↓ ゆれの大小 ↓ ロープをまわす(大小) ↓ 人数を多く乗る事に挑戦 ↓ 位置を変える ↓ 高いところから思いきりとぶ
10:00	トロッコ (教師の手だて) … (期待される幼児の行動及び発達) 平坦を走る ↓ ひもをかけて斜面を走るのを喜ぶ ↓ 二〜三連結して友達と関って遊ぶことを楽しむ。		▲ 園庭や遊具点検をし、安全に遊べるようにする。 ▲ 興味や熱心に沿って遊べるように、遊具を準備する。 ▲ 自分なりの判断や工夫、成就感を示した場合には保育者が気持ちを読み取り共感を表すことによって、さらに感動を強め満足感を持たせる。 ● ケンカ、トラブルなどは大切な機会としてとらえ、注意深く見守り援助する。

(1) 幼児の動きを見つめて

① O子のスケーター遊びから

〈事例〉

園庭の東側にあるゆるやかな斜面を使ってスケーター遊びをしていたO子が「先生この坂滑れたから1組の前の坂に行くよ」と言う。今迄ゆるやかな斜面でスケーター遊びを楽しんでいたO子なので、急斜面に億したのか、お尻をつけてこわごわ滑っている。数回滑っているうちに自信がついたのでしょう。風を切ってスピード感やスリル感を味わいながら楽しそうに滑っている。しかし、バランスをくずしてしまったO子は足をすりむいてワーッと泣いてしまった。みんなが心配そうにかけ寄ってきて「大丈夫かー」と声かけするのですぐに泣きやむ。恐くなって滑らないだろうと思っていると、今度は坂の途中から慎重に滑りだした。信号系の幼児達の合図を見ながら滑り、滑っては傷を撫でている。急坂の途中から滑り、ゆるやかな坂になると自信がついたのか笑顔が見られ片足を上げて何度も斜面滑りを楽しむ。

〈教師の読み取り〉

- ・「先生、この坂滑れたから1組の前の坂に行くよ」と話すO子の姿から、次はどうするという課題意識をもって遊びを展開している様子が伺える。
- ・ゆるやかな坂より急な方がスピード感、スリル感があるという事を知っている。挑戦意欲がある。
- ・足をすりむいたけれども自分の思いを成し遂げた充実感や満足感を味わっている。
- ・O子は能力に応じた滑り方を楽しんでいる。

〈この活動で育とうとしているもの〉（発達に必要な経験や内容）

- ・全身を使って活動に取り組み、何度も試す **意欲**
- ・足をすりむいてけがをした時まわりの子供達が自分のことのように心配し励ます。 **心情、態度**
- ・目標に向かって遊びを楽しむ。 **満足感、充実感**
- ・自分の能力を知って何度も試し、工夫しながら遊ぶ **探求心**

(2) 幼児の動きを見つめて

② ターザンロープとのかかわりから

活動の様子	環境構成	発達の過程	よみとり	教師とのかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロープに飛び乗って遊ぶ。</li> <li>○土山の上から地面すれすれに乗る。</li> <li>○二人乗りに挑戦</li> <li>○ロープとかかわる子が多い為「先生貸さないよー」という声が聞かれる。</li> <li>○強い子が乗って次の子に貸さない場合「△△さんが三回乗ったら交代してね」と提案する姿が見られる。</li> <li>○跳ぶ子は自分でロープを取ってから乗る。</li> <li>○アメリカネムノキに結んであるロープに足を置いてターザンロープに飛び乗りポンポンとリズムよく足で蹴っている。</li> <li>○終わった子は次の人にロープを渡してから並ぶ。</li> <li>○目をつぶって乗る。</li> <li>○五回つづけてやってから交代する姿が見られる。</li> <li>○ロープをグルグルまいてまわる姿が見られる。(小まわり)</li> <li>○地面を大きく蹴ってまわる。</li> <li>○ロープに乗りながらつり橋を三回たたく。</li> <li>○土山の上にコロコロを二台重ねたり、地面の上に置いたりしながら遊ぶ。</li> <li>○ブランコの橋の上に乗って遊ぶ。</li> <li>○跳び乗る瞬間他の子が通ると「危ないよー」と声がする。</li> <li>○男女共つり橋の上に乗って楽しそうに遊ぶ。</li> <li>○四名乗りに挑戦する。</li> <li>○イメージを広げて遊ぶ。(鉄棒、カエル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの変化を支え一緒に楽しむ。</li> <li>・コロコロをロープの近くに置く。</li> <li>・再構成しながら遊ぶ様子を一緒に楽しむ。</li> <li>・満足するだけのたっぷり時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゆれの大小に気づく</li> <li>○困った場合に先生に頼る。</li> <li>○貸さない場合話し合いで解決しようとする。</li> <li>○自分が終わると次の人がすぐできるようにロープを渡すおもいやりが見られる。</li> <li>○ゆれが少ない為弾力のないロープを足で蹴る等楽しく遊ぶ為の工夫をする。</li> <li>○自分が終わると次の人にロープを渡すおもいやりがみられる。</li> <li>○目をつぶって乗ることによりゆれ充分楽しむ。</li> <li>○ロープを回す(小回り・大まわり)</li> <li>○つり橋を三回たたく等遊びに変化が見られる。</li> <li>○位置を変える             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロコロ大小使用</li> <li>・橋の上に立って跳び乗る。</li> </ul> </li> <li>○危険を察知する。</li> <li>○高い所から(2M位)飛び乗る事を楽しむ。</li> <li>○意欲を持って取り組む。</li> <li>○新しい力の獲得イメージを広げて遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最初は地面すれすれに跳んでいたが去年と変わって土山がある為、変化があって楽しいのであるろう。かわる子が多い。</li> <li>○交代しない子に「貸して」といってもすぐに貸してくれない事を知っている。三回と提案したにはロープにまだ慣れてなくそれ以上やったら手がいたいという事も知っている。</li> <li>○ロープを渡すことで相手の立場にたって物考える優しさが育っている。</li> <li>○どうすれば遊びがより楽しくできるかを工夫しながら知的能力を発揮しながら遊んでいる。</li> <li>○大きいコロコロを下に置くことにより大きいのは安定感があるという事を知っているのであるろう。</li> <li>○より高い所から遊ぶことの楽しさを見いだす。お互い同志、安全に気をつけ声かけする優しさが育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲危険に関しては十分配慮する。</li> <li>○やっていることを認め一緒に喜ぶ。</li> <li>○気づきや工夫を認めあげ称賛する。</li> <li>○遊びが豊かになっていくことへの共感「なるほどいいね」励ましをする。</li> </ul>

## VI 考 察

環境構成の工夫をすることにより、幼児は自ら積極的に遊具にかかわっていく。幼児の環境とのかかわりによって育つ姿を下記のように考察した。

### 1 心の安定

木と木の間の空間やログハウスの床下やくぼ地で「俺達の秘密の場所だよ」といいながら3、4名で夢中になって遊んでいる。その姿から心の安定の場を求め「俺達」意識が育ってきた。ログハウス、くぼ地、木陰が幼児の心の安定できる居場所として役立っていることがわかった。

### 2 敏捷性、瞬発力、挑戦意欲

つり橋で遊んでターザンロープやスベリ台、竹棒、さるわたり、木のバス、トロッコ、スケーター等と次々遊びが展開していくように遊具を配置した。高低やゆれなどをうまく組み合わせ、幼児にとって魅力あふれる遊具となるように配慮した。遊具と十分に遊びこんでいくうちに幼児は敏捷性、瞬発力、挑戦意欲を身につけるようになった。

### 3 遊具と人間関係

ターザンロープにかかわりながら強い子がひとりじめして次の子に貸さない場合、「○○さんが3回乗ったら交代してね」と提案している姿が見られた。このことからトラブルや喧嘩を解決する為の工夫が仲間のルールとして育つようすが見られた。将来生きていく為に必要な人と人とのかかわり方、新たなルールづくりをしてそれを守ろうとする態度も見られるようになった。

### 4 言葉が育つ

スケーターやターザンロープ等に挑戦した後、「おーすごいな」「怖いけど楽しい」「今度はこういうふうにしよう」等と自分の思いをお互い同士話し合い、感動を伝えあい言葉をかわし合っている。それによって心情、意欲、態度も育ち、言葉の獲得や豊かな感性が育ってきた。

### 5 安全に対する配慮

スケーターに乗って、急斜面から滑る前に「危ないよー、どいて」と大声で知らせる姿が見られる。スリル感やスピード感、冒険心を体験している。又、スケーターとスケーターがぶつかった時、遊具とどうつきあうかを身につけがしなないように上手に転ぶことができる。かすり傷程度はあっても大きな事故がない。いかにすれば安全であるかを考え、手づくりの信号をつくり幼児同士その旗を見て、それに従ってスタートを切っていく姿が見られる。そのことから思考力、安全に対する配慮、敏捷性、知的能力、意欲も育っていることがわかる。

### 6 環境としての教師

教師は環境にかかわる幼児の姿をありのまま受け入れ、見守りながら幼児が必要とする時タイミングよく適切な言葉、適切な手立てと援助を与え、より良き発達へと促す。そのためには、なによりも一人一人の幼児との信頼関係の確立が大切である。

### 7 発達の特性の違いから

幼児一人一人発達の特性が異なり、興味、関心に対する受け止め方も違う。今迄ターザンロープに興味を示さなかった幼児が風を切って心地良さそうにターザンロープに乗っている友達の姿を見て、乗りたいという気持ちにかられる。しかし怖いので短いロープの取り付けを教師に要求する。どこの場所に取り付ければ良いのかを教師と共に一生懸命考える。乗った時の喜びや心地良さが次の遊びへの意欲や態度を培う。教師が幼児の言葉に耳を傾け、一人一人の育ちに合った環境構成に向けて努力することは発達を助長することにつながっていく。

### 8 蓄積されたイメージから

つり橋を渡るという単調な遊びに変化をつける為、ターザンロープを新たに取付けた。それによって大小のコロコロを利用し、互いをみながら「三、二、一、〇」といいながら出発を一緒にして握手する姿がみられた。サーカスをイメージしているようだ。又、4m離れている2つのターザンロープを使って、ブランコを作っている。ロープを取り付けることによってサーカスやブランコ等新たな遊びの工夫がみられ、幼児のイメージが次々と広がっていく。このことから、1本のターザンロープの取り付けに

よって知的好奇心、気づき、意欲、生活の広がりや深まりへと変化が見られた。

## 9 身近な虫や花との触れ合い

虫やチョウを呼ぶ為の植物や幼児が必要な時いつでも摘んで良い花と鑑賞用の花、両方を植えた。色水遊び、ジュース屋さんごっこ、花の首飾りづくり、花びらや葉をとって草笛をつくり、虫にみつをすわす等をして楽しんでいる。その結果、飼育、観察、図鑑を通しての確かめ、驚き、発見、喜び、感動を体験し、思いやり、心情、意欲、態度の育ちも見られた。

## 10 組み換えられる環境

環境構成は固定的なものではなく、幼児の心の動きに応じて次々と組み換えられていかなければならない。例えばターザンロープにかかわって「太ももが痛い」という幼児の姿から、ワッカを取り付けることによって、痛みが解消する。それによって意欲的に取り組む姿が見られた。教師は幼児と生活を共にしながら、その心の動きを理解し、環境が発達に与える影響が大なるものであることを考え、適切なものとなるよう常に工夫に努める必要がある。

## 11 豊かな感性

スケーターで思いきり斜面を走る時の歯車の音や風の音、トロッコ遊びをする時のゆるやかな風の音、ターザンロープをしながら自然の奏でる葉っぱのゆれる音、カエルの鳴き声や小鳥のさえずる音に幼児は耳を傾けながら遊ぶ。そのような音が心地良い響きとなって身体中を駆けめぐり、夢中になって知っているリズムやメロディーを口ずさむことがある。このように戸外での活動は自然と作用し合って心情や豊かな感性を育む土台となっている。

## 12 基本的な生活習慣

園生活の中では様々な活動が展開されるが一つ一つの活動は別々に存在するのではなく互いに影響しあって幼児に意識され連続した流れをつくっている。例えばトロッコで意欲的に、十分に遊んだ幼児は満足感や充実感を味わいながら明日続きがやれるとの期待感で心いっぱいになる。そしてだれに指示されることもなく積極的に後片付けをし、生き生きと降園していく。幼児の発達のニーズに合わせた環境づくりが基本的な生活習慣の形成にも好影響を及ぼすことがわかる。この必要性が無理なく受け止められることを知った。

# Ⅶ 研究の成果と今後の課題

## 1 成果

環境がいかに幼児の発達に影響を及ぼすかということに視点をあてて研究を進めてきた。幼児が能動性を発揮しながら発達を変容していく姿から教師として以下のことを学ぶことができた。

- (1) 幼児の興味、関心をそそる環境構成を工夫することにより「幼児の想像力の広がり」「思いを実現しよう」と一生懸命取り組んでいく創造的な姿勢」「恐れることなくより高きに挑戦しようとする姿」「運動能力」「知的発達」を確認することができた。
- (2) 幼児の興味や欲求を生かすような環境づくりに取り組んだことでおもいやりや、やさしさ等の心情面、物ごとに取り組むことのできる意欲や態度、規範意識、安全に対する配慮、仲間意識の育ち、生活習慣の育ちが見られた。
- (3) 教師の生活する姿や考え方が幼児の生活に大きく影響する。環境としての教師、援助者としての教師の役割の大切さがわかった。

## 2 今後の課題

- (1) 戸外環境とのかかわりだけでなく室内の環境構成についても研究を深めたい。
- (2) 幼児の目が一層輝く環境構成と援助のあり方の実践研究を深めたい。
- (3) 幼児の生活する姿(遊び)に即応する指導計画の作成を図る。

### 〈主な参考文献〉

文部省	『幼稚園教育指導書増補版』	フルーベル館	1989年
文部省小学校課・幼稚園課 編著	『初等教育資料』	東洋館出版社	1995年
岸井勇雄 著	『幼稚園教育要領用語解説』	保育資料社	1988年